

時局に思う



日本遺族会会長
参議院議員

水落敏栄

さる十一月十日から樺太・占守島のご遺骨の引き渡式に参列いたしました。今回の遺骨収集は、ロシア連邦国防省等の協力で行われました。関係各位のご尽力に心より感謝の意を表したいと思えます。私は、樺太・千島戦没者慰霊碑の建設にあたり、この島には大変思い入れがあります。

日本遺族会が厚生労働省より委託を受け、日本政府がロシア・サハリン州スミルヌイフ地区に建立した「樺太・千島戦没者慰霊碑」には、私は計画段階より日本遺族会の担当者として携わらせていただきました。慰霊碑の予算は平成七年に計上され、同年の八・十一月にサハリン州政府と七回に亘る交渉を行い、平成八年に慰霊碑が竣工され、平成九年十月二十七日に建設地スミルヌイフのコジンスキー地区長と契約を交わしたことが昨日のように思い出されます。

この慰霊碑については、毎年維持管理調査の為、日本遺族会が現地を訪れています。経年劣化はしていますが、その都度補修していただいております。管理が行き届いているのは、建設当時から係っていただいた地区長はじめ現地の関係者の努力の賜物です。ここに改めて敬意と感謝を申し上げます。私たち戦没者遺族は、これからも戦争の悲惨さ平和の尊さを語り継ぐ努力をしなければなりません。慰霊碑の管理や、慰霊巡拝、ご遺骨の収集は、その主たるものですが、これらの事業は相手国の協力なしには成し遂げられません。先に申し上げた海外の慰霊碑の建設、維持管理についても同様で、遺骨収集においても、戦後七十年が経過した現在では、現地からの情報を基にご遺骨の収集を行っています。

先の大戦において、我が国の三〇万人にのぼる方々が犠牲となり、その尊い生命の礎の上に、今日のわが国の平和と繁栄があります。そして不幸にも各戦域においては、現地の方々のたくさんの犠牲があったことは言うに及びません。戦争は悲しみしか生みません。しかし、一貫して平和を願う遺族の心情が長い年月をかけて現地の方々の気持ちをほぐし、今日の友好関係を生んだのではないでしょうか。故に私たち遺族会は、悲劇を二度と繰り返さないために、世界の恒久平和の実現を願い、これからも活動して参りましょう。



平成20年にスミルヌイフの「樺太・千島戦没者慰霊碑」を視察した水落敏栄本会会長